栴檀

双葉南小学校だより
発行日2010，4,26
№　3
発行責任者　末永幸弘

一年生を迎える会

この季節、学校も会社も新人さんの歓迎会の真っ盛り。二十三日（金）の二校時に双葉南小学校でも一年生を迎える会を行いました。

新しく進級した六年生を中心とした児童会が企画、運営した楽しい集会でした。

一年生の皆さんは、すっかり学校に慣れたようですね。

一年生の皆さんは、入学式がとても立派にできました。しっかり椅子に座ってお話も上手に聞けました。「ハイ」という返事も元気にできました。お父さんお母さんもとても嬉しそうでした。

今日の「一年生を迎える会」は、皆さんの入学を楽しみに待っていた二年生から六年生までのお兄さん、お姉さんが皆さんを歓迎する会です。

さて、二年生の皆さん、手を挙げてみてください。（はい、おろしてください）

皆さんは、ちょうど一年前には、今の一年生と同じだったですね。一年経つと体もずいぶんと大きくなり、話を聞く態度や並び方も上手ですね。皆さんは立派な先輩です。一年生にいろいろなことを教えたり、お世話をしてください。

さて、三年生以上の皆さんにも一年生のときがありました。皆さんにも同じことが言えます。いや、それ以上に一年生のお世話をしてください。一年生の皆さんは、まだ学校のことが良く分かりません。早く学校に慣れるようにしてあげましょう。学校全体で一年生を大事にしましょう。

特に、六年生のみなさんは、最上級生です。六年生がしっかりしていると学校全体がしっかりします。下級生の模範となるよう頑張ってください。この後、ゲームやプレゼントがあるようです。楽しい会にしてください。

校長あいさつ

おはようございます。今日は児童会のお兄さんお姉さんが準備してくれた「一年生を迎える会」です。四月六日の入学式から三週間が経ちましたが、六年生代表の歓迎の言葉「皆さんの入学するのを楽しみに待っていました。分からないことは何でも聞いてくださいね。」

続いて、「仲間づくり」のゲームや「〇×クイズ」「プレゼント」とお楽しみが続きました。

「こどもの読書週間」は昭和34年に第１回が実施されてから、今回で第52回を迎えることになりました。今年の標語は『たんけんしたいな本の森』です。

幼少の時から書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、物ごとを正しく判断する力をつけておくことが、次の世代を担うこどもたちにとって、どんなに大切であるかは今さら申しあげるまでもありません。本を読み、読んで考え、考えて行動するこどもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題点も解決されるのではないでしょうか。

「こどもの読書週間」はこどもたちに、よい本やよい雑誌に親しむことをすすめ、読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけさせる好機です。そして同時に大人にとっては、こどもの読書がいかに大切なことか、よい本や雑誌を与えるためにはどういう努力をしたらよいか、ということについて考える機会でもあるといえましょう。

㈳読進協では「こどもの読書週間」のテーマとして『家庭・地域読書のすすめ』をとりあげ、「家庭・地域にこども文庫をつくろう」「親子読書を育てよう」など、家庭・地域における、こどもの読書推進に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、以下の３点につきると思います。

（１）幼児には父母が本を読んで聞かせてあげる。

（２）こどもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことを賞揚し、本を読むのを聞いてあげる。

（３）そして大切なことは、父母みずからが読書する姿を、こどもたちの眼にふれさせる。

やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、親子の対話に発展することは明らかです。（一部略）　平成２２年３月

社団法人　読書推進運動協議会